体内異物遺残防止

1．目　的

手術時、体内に異物を残さない。

2．用語の定義

1）「体内異物」とは、手術野に用いられる手術器械・器具、ガーゼ類(タオル・スポンジ・ツッペル・糸付き綿)・針・血管用テープなどを含めたすべての医療材料・機器をいう。

2）「カウント」とは、遺残防止のために手術に使用する物品の数を数えることをいい、「カウントが合う」とは、全ての物品に欠損がなく元の形状で数が合うことをいう。

3）ここでいう「タイムアウト」とは、手術操作に関わる医師、器械だし看護師、外回り看護師のメンバー全員が、カウントが合致していることを一斉に手を止めて確認しあうことをいう。

3．必要物品

カルテ、X-P写真、カウント用紙、使用器械・材料リスト用紙

4．必要な知識

遺残の原因との可能性の高い手術として以下のことを知っておく必要がある。

表2　遺残の原因との可能性の高い手術

遺残の原因	① 手術操作で使用し、取り除くべきであったものを取り忘れた ② 手術野と異なる場所で使用し、落下・分解などの理由で遺残した
遺残の可能性の高い手術	① 長時間手術 ② 同時期に2箇所以上の手術創が発生する手術 ③ 体位変換のある手術 ④ 複数の執刀医がいる手術 ⑤ 緊急手術 ⑥ 器械出しや外回りが何度も交代する手術 ⑦ 術中に急変事態が起こった手術 ⑧ 出血量の多い手術

5．要　点

1）すべての手術で遺残の可能性がある。

2）体内遺残を起こすことは、感染・機能障害や再手術などの患者への負担と、医療施設の経済的負担が伴うことを認識する。

3）摘出物と共に室外に持ち出される可能性があることを認識する。

6．看護手順

1）一般的なカウント手順

看護手順	留意点（コツ･ポイント）
□ カウントは1人で行わず同時に2人以上で行う。	① ダブルカウントを推奨する。
□ カウントはタイムアウトで、チームメンバー全員が確認する。	② カウント間違い防止のため、様々な器具の利用も有効である。
□ カウントを行ったことを記録に残す。	③ 記録内容は、カウントに関わった者（執刀医、器械出し看護師、外回り看護師）、カウントした物品の名称および数を、カウントのプロセスが分かるように表す。
□ 最終カウントの結果は、執刀医、器械出し看護師、外回り看護師の三者で合致したことを記録し、責任の所在を明らかにする。	④ カウントが不一致であった場合のルールについて、医師と看護師の間で共通の理解をしておく。
□ カウントの時期は、手術開始前、体腔閉鎖前（胸膜、腹膜閉鎖前）、筋層閉鎖前、皮膚縫合前、手術終了後とする。	⑤ 手術に使用するすべての物品は、カウントが合致し最終確認が終了するまで、廃棄しない。
□ 可能な限り手術室内で術後のＸ線撮影を行い、体内異物遺残がないことの確認を行う。	⑥ 手術で使用する材料は、Ｘ線不透過性でＸ線撮影により検知できる材質のものを使用することが望ましい。

2）器械のカウント

看護手順	留意点（コツ･ポイント）
□ 器械リストに沿って点数を数える。	① 器械リストを器械セット内にいれ滅菌する。 ② 分解できる器械やネジなどは、点数の確認方法を決め、器械リストに記載する。 例）○○1点（分解して2点）
□ 破損や不備がないか点検する。 （持針器のチップの磨耗、ネジの脱落、ヒビ割れ、バネのゆるみ・欠損など）	③ 破損、不備があった器械・器具は準備時に除去する。
□ 器械出し看護師は、術野から返ってきた器械・器具・材料の数と、破損やネジなどの紛失がないかを確認する。	④ 器械出し看護師は、器械の破損やネジの紛失を、発見した時ただちに術野医師、外回り看護師に報告し捜索を開始する。

3）縫合針のカウント

看護手順	留意点（コツ･ポイント）
□ 器械台に出した針の種類、本数をカウントする。	① 術式に応じて、準備時に器械台に出す針の種類・本数を決めておく。
□ 器械出し看護師は、使用前、使用後の針の数、弾機部分や先端に破損がないか確認する。	② 針は手術器材の中でもっとも紛失のリスクが高く破損も多い。 ③ 器械出し看護師は、針の破損や紛失を、発見した時ただちに術野医師、外回り看護師に報告し捜索を開始する。
□ 縫合針の台紙、針付き糸のパッケージなどで照合して、針をカウントする。	④ パッケージは、照合まで廃棄しない。
□ 器械出し看護師は、術野に渡した針を確実に回収する。	⑤ 手術操作によってはすぐに回収できない時もある。

4）ガーゼのカウント

看護手順	留意点（コツ・ポイント）
□ 術野に使用するガーゼは、すべてX線で検知できるものを使用する。	① X線不透過糸がより多い方が、X線撮影での検知が容易である。
□ 使用するガーゼは種類ごとに1枚ずつ離して数える。	② 術式に応じて使用するガーゼの種類・準備枚数（最小単位）を決めておく。
□ 器械出し看護師は、外回り看護師に術野で使用するガーゼの種類と枚数を報告する。	③ 器械出しと外回りともに、数えたガーゼの管理方法を決めておく。 ④（ガーゼ回収用、ゴミ用のバケツと区別するなど）
□ 摘出された組織標本に、ガーゼがついていないか確認する。	⑤ 摘出物と共に室外に持ち出される可能性がある。

5）その他

看護手順	留意点（コツ・ポイント）
□ ドレーンを挿入された場合、確実に固定がされたことを確認する。	① 短くカットされたドレーンを挿入する際、固定のゆるみによって体内への脱落の可能性がある。